

都市再生整備計画 事後評価シート
京都岡崎地区

平成29年2月

京都府京都市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	京都府	市町村名	京都市	地区名	京都岡崎地区			面積	34ha
交付期間	平成24年度～平成27年度	事後評価実施時期	平成28年度	交付対象事業費	6,264百万円	国費率	0.45		

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名							
	基幹事業		道路(神宮道周辺道路整備)、公園(岡崎公園再整備)、高質空間形成施設(京都公会館外構整備)、高次都市施設(京都公会館増築工事)、既存建物活用事業(京都公会館既存改修)							
	提案事業		地域創造支援事業(動物園再整備)、事業活用調査(交通調査、計画策定)、まちづくり活動推進事業((岡崎地域における官民地域連携によるエリアマネジメント組織の運営)							
			事業名		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
	当初計画から削除した事業	基幹事業	無		無			無		
		提案事業	無		無			無		
新たに追加した事業	基幹事業	道路(神宮道周辺道路整備)、公園(岡崎公園再整備)、高質空間形成施設(京都公会館外構整備)		京都公会館再整備における外構工事について、高質空間形成事業として新たに項目を追加。 都市再生整備計画の目標に掲げる岡崎地域の「更なる賑わいの創出」を実現するため、神宮道(冷泉通～二条通)と岡崎公園の一体的な整備をすることとしている。それに伴い、神宮道周辺道路の詳細設計、工事を追加。			有			
	提案事業	事業活用調査(交通調査、計画策定)		神宮道を歩行者専用化し、岡崎公園との一体的な整備に向けて、周辺道路の交通調査・影響検討と整備内容の検討を追加。			有			
交付期間の変更		当初	平成24年度～平成28年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		無				
		変更	平成24年度～平成27年度							

2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標1	動物園入園者数	人	710,105	20	781,116 (H27年度第4四半期:195,279) ↓ (年換算)	27		1,417,748	○	あり なし	近く楽しい都市型動物園として、園内のゾーン分けや図書館、カフェ・レストランなどの施設を充実させ、多彩なイベントを開催できる施設として整備したことで、入場者数の増加となり、賑わいが創出できた。	無
指標2	京都公会館利用率	%	第一ホール:67% 第二ホール:67%	21	第一ホール:77% 第二ホール:77%	27		第一ホール:100% 第二ホール:100%	○	あり なし	施設として、総合舞台芸術が可能な第一ホール、伝統芸能から現代演劇まで行える第二ホール、常に賑いのあるスペースとしての中庭として整備しており、多彩な公演・イベントが開催できることとなった。 結果として、ホールの利用率の向上につながり、岡崎地区の賑わいへの貢献となった。	無
指標3	神宮道でのイベント・催し件数	件	5件	24	8件 (H27年度第4四半期:2件) ↓ (年換算:8件)	27		12件	○	あり なし	岡崎のシンボルとなるプロムナード整備に伴い、多彩なイベントが開催できるオープンな空間を創出するとともに、地域の施設や事業者間の連携強化、魅力ある事業の企画調整や効果的な情報発信の取組により、多くのイベントが開催され、賑わいが創出できた。	無
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1											

4)定性的な効果発現状況

5)実施過程の評価	モニタリング	実施内容		実施状況		今後の対応方針等	
住民参加プロセス				都市再生整備計画に記載し、実施できた			
				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			
持続的なまちづくり体制の構築				都市再生整備計画に記載し、実施できた			
				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			
				都市再生整備計画に記載し、実施できた	○		引き続き、更なる岡崎地域のエリアブランドの構築と、多くの人が憩い賑わう空間を創出する取組を進めていく。

様式2-2 地区の概要

京都岡崎地区(京都府京都市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
<p>京都・岡崎地域は、東山を望む素晴らしい都市景観の中に琵琶湖疏水をはじめ、美しい庭園群や文化財、美術館、博物館などの文化交流施設が集積した地域であり、文化・交流ゾーンとして年間500万人以上の方々が来訪している。このように、岡崎地域の持つ素晴らしいポテンシャルの更なる活用と岡崎地域で展開されつつある関連施策の融合により、地域の活性化の指針たる「岡崎地域活性化ビジョン」を策定した。本計画は、このビジョンを実現するための施策を行い、「優れた都市景観・環境の将来への保全継承」、「世界に冠たる文化・交流ゾーンとしての機能強化」、「更なる賑わいの創出」を図っていくことを目標とする。</p>	動物園入園者数	単位：人	710,105	H20	781,116 (H27年度第4四半期：195,279) ↓ (年換算781,116)	H27	1,417,748	H27
	京都都会館利用率	単位：%	第一ホール：67%	H21	第一ホール：77% 第二ホール：77%	H27	第一ホール：100% 第二ホール：100%	H27
	神宮道でのイベント・催し件数	単位：件	5件	H24	8件 (H27年度第4四半期：2件) ↓ (年換算：8件)	H27	12件	H27



まちの課題の変化	<p>ロームシアター京都(京都都会館)、動物園及び神宮道と岡崎公園の再整備による文化交流施設等のリニューアルに加え、官民地域連携のエリアマネジメント組織が主体となって実施する地域連携型魅力創出事業や、総合情報サイト及び地域のガイド拠点「岡崎・市電コンシェルジュ」の開業等の情報発信・総合案内の強化等により、国内外から岡崎エリアに来訪された方が、年間延べ500万人から626万人(平成27年度)に増加するなど、世界の人々が集う賑わいと創造性のあるまちづくりが大きく前進してきている。</p>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<p>今後は、これまでの「岡崎地域活性化ビジョン」推進の成果を踏まえ、琵琶湖疏水をはじめ、美しい庭園群や文化・交流施設が集積するとともに、ロームシアター京都や動物園、神宮道・岡崎公園がリニューアルし、更に美術館の再整備が予定されるなど、魅力が一層高まる岡崎地域において、① 岡崎エリア内の回遊性の向上、② MICE拠点としての機能強化、③ 更なる集客と夜の賑わい創出、④ 京都ならではのスマートコミュニティの実現を重点戦略の4本柱として、「文化の薫り漂う、歩いて楽しい岡崎」の実現を目指し、本市と官民地域連携によるエリアマネジメント組織が両輪となり、強力に推進する。</p>

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 有識者からの意見聴取

- 添付様式8 有識者からの意見聴取

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	1月18日	1月31日	担当課への郵便, FAX, 持参	総合企画局 プロジェクト推進室 文化市民局 文化芸術都市推進室 文化芸術企画課 建設局 建設企画局 建設局 みどり政策推進室
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他					

住民の意見	特に無し				
-------	------	--	--	--	--

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標	●		動物園整備:開始年度の前年入園者数を基準に10%の増加を目標とする。	動物園整備:開始年度の前年入園者数を基準に10%の増加を目標とする。	事業期間の短縮により,目標値の設定を変更した。(第4回変更)
			京都会館再整備:第一ホール及び第二ホールの日数利用率と再整備後の平成27年度の日数利用率を比較し,平均10%の増加を目標とする。	京都会館再整備:第一ホール及び第二ホールの日数利用率と再整備後の平成27年度第4四半期の日数利用率を比較し,平均10%の増加を目標とする。	事業期間の短縮による変更(第4回変更)
			—	神宮道イベント:現状の催しの5割増以上を目標とする。	指標の追加を行う。(第1回変更)
C. 目標値	●		全体事業完了後の1年間を指数のカウント期間とした。	全体事業の期間短縮に伴い,事業の最終年度第4四半期を指数のカウント期間とした。	事業期間の短縮による変更(第4回変更)
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	神宮道周辺道路整備(交差点改良等)	—	—	60	交差点改良等	事業の追加(第1回変更) 神宮道(冷泉通～二条通)の歩行者専用化に伴う神宮道周辺道路の詳細設計, 工事を追加	神宮道を歩行者専用化した際の整備効果を示すことのできる成果指標を追加	●	
公園	岡崎公園再整備事業	—	—	250	6,400㎡	事業の追加(第1回変更) 神宮道(冷泉通～二条通)と岡崎公園の一体的な整備に伴う公園の詳細設計, 工事	神宮道を歩行者専用化した際の整備効果を示すことのできる成果指標を追加	●	
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設									
高質空間形成施設	京都会館再整備事業	—	—	268	中庭, ピロティのし上げ, 外構照明の整備	事業の追加(第1回変更) 京都会館再整備における外構工事について, 高質空間形成事業として新たに項目を追加	影響なし	●	
高次都市施設	京都会館再整備事業	5,410	第一ホール部分を建て替え, 舞台機能の向上を図る	7,129	第一ホール部分を建て替え, 舞台機能の向上を図る	設計変更に伴う事業費増	影響なし	●	
既存建造物活用事業	京都会館再整備事業	3,490	第二ホール, 会議場の既存躯体を活用した, 全面的な改修	3,637	第二ホール, 会議場の既存躯体を活用した, 全面的な改修	設計変更に伴う事業費増	影響なし	●	
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無				
			基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	確定	見込み	モニタリング	確定	見込み	あり	なし				
指標1	動物園入園差数	人	平成27年度第4四半期の入園者数を集計し、その4倍を年間算数とする。		710,105	20	781,116 (H27年度第4四半期: 195,279) ↓ (年換算 781,116)	27	モニタリング	—	—	モニタリング	—	1,417,748	事後評価	○		
									事後評価	見込み	●	○						
指標2	京都会館の日数利用率	%	平成27年度第4四半期のホールの日数利用率を集計。		第一ホール: 67% 第二ホール: 67%	21	第一ホール: 77% 第二ホール: 77%	27	モニタリング	—	—	モニタリング	—	第1: 100% 第2: 100%	事後評価	○		
									事後評価	見込み	●	○						
指標3	神宮道を活用したイベント・催し開催件数	件	平成27年度第4四半期のイベント・催し開催件数を集計し、その4倍を年間算数とする。		5件	24	8件 (H27年度第4四半期: 2件) ↓ (年換算: 8件)	27	モニタリング	—	—	モニタリング	—	12件	事後評価	○		
									事後評価	見込み	●	○						
指標4									モニタリング	—	—	モニタリング	—	事後評価	—			
									事後評価	見込み	●	○						
指標5									モニタリング	—	—	モニタリング	—	事後評価	—			
									事後評価	見込み	●	○						

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	従前値の10%増加を目指し再整備を行ったが、期待以上の成果を上げることができた。	
指標2	ホール利用率を67%から77%を目指し再整備を行い、期待以上の成果を上げることができた。	
指標3	多彩なイベントが展開できるオープンな賑わい空間を創出し、従前の平成24年度は5件であったが、平成27年度は12件となり、目標を大きく達成できた。	
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
				基準 年度		基準 年度					
その他の 数値指標1							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標2							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標3							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
岡崎地域の施設、団体、事業者、関連政策分野の団体、行政等が参画し、官民地域連携で「岡崎地域活性化ビジョン」を推進するエリアマネジメント組織において、エリアブランドの構築や情報発信に取り組み、岡崎地域の魅力を享受できる環境づくりを進めた。	予定どおり実施した	○	京都岡崎魅力づくり推進協議会：岡崎地域の施設、団体、事業者、関連政策分野の団体、行政等が参画し、官民地域連携で地域の活性化の指針である「岡崎地域活性化ビジョン」を推進するエリアマネジメント組織。	引き続き、更なる岡崎地域のエリアブランドの構築と、多くの人々が憩い賑わう空間を創出する取組を進めていく。
	予定はなかったが実施した	○		
	予定したが実施できなかった (理由)	○		
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内関係課会議	総合企画局 プロジェクト推進室 文化市民局 文化芸術都市推進室 文化芸術企画課 建設局 建設企画課 建設局 みどり政策推進室	平成29年1月	総合企画局 プロジェクト推進室

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3		指標〇		
指標名		動物園入園者数		京都会館利用率		神宮道でのイベント・催し件数				
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	
基幹事業	道路(神宮道周辺道路整備)	○	近くて楽しい都市型動物園として、園内のゾーン分けや図書館、カフェ・レストランなどの施設を充実させ、多彩なイベントを開催できる施設として整備したことで、入場者数の増加となり、賑わいが創出できた。	○	施設として、総合舞台芸術が可能な第一ホール、伝統芸能から現代演劇まで行える第二ホール、常に賑いのあるスペースとしての中庭として整備しており、多彩な公演・イベントが開催できることとなった。結果として、ホールの利用率の向上につながり、岡崎地区の賑わいへの貢献となった。	◎	岡崎のシンボルとなるプロムナード整備に伴い、多彩なイベントが開けるオープンな空間を創出するとともに、地域の施設や事業者間の連携強化、魅力ある事業の企画調整や効果的な情報発信の取組により、多くのイベントが開催され、賑わいが創出できた。			
	公園(岡崎公園再整備事業)	○		○		◎				
	高質空間形成施設(京都会館再整備事業)	-		◎		○				
	高次都市施設(京都会館再整備事業)	-		◎		○				
	既存建造物活用事業(京都会館再整備事業)	-		◎		○				
提案事業	地域創造支援事業(京都動物園再整備事業)	◎		-		○		◎		
	事業活用調査(神宮道及び岡崎公園の再整備)	○		○		◎				
	まちづくり活動推進事業(岡崎地域における官民地域連携によるエリアマネジメント組織の運営等)	○		○		◎				
関連事業	京都市動物園再整備事業	◎		-						

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	<p>今後は、これまでの「岡崎地域活性化ビジョン」推進の成果を踏まえ、今後の展開として、琵琶湖疏水をはじめ、美しい庭園群や文化・交流施設が集積するとともに、ロームシアター京都や動物園、神宮道・岡崎公園がリニューアルし、更に美術館の再整備が予定されるなど、魅力が一層高まる岡崎地域において、① 岡崎エリア内の回遊性の向上、② MICE拠点としての機能強化、③ 更なる集客と夜の賑わい創出、④ 京都ならではのスマートコミュニティの実現を重点戦略の4本柱として、「文化の薫り漂う、歩いて楽しい岡崎」の実現を目指し、本市と官民地域連携によるエリアマネジメント組織が両輪となり、強力で推進する。</p>
-------	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標○			指標○			指標○			指標○		
指標名													
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業													
提案事業													
関連事業													

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- ー: 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)				
------------------	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内関係課会議	総合企画局 プロジェクト推進室 文化市民局 文化芸術都市推進室 文化芸術企画課 建設局 建設企画課 建設局 みどり政策推進室	平成29年1月	総合企画局 プロジェクト推進室

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
施設間の連携の弱さ	京都岡崎魅力づくり推進協議会を設立し、年1回の総会と毎月幹事会を開催し、連携を強化するとともに、協議会主催のイベント等では周辺施設や団体と一体になって、賑わいを創出した。		岡崎地域では、ロームシアター京都や動物園のリニューアルオープンし、岡崎公園では再整備以降、昼のイベント開催が活発化する等により、多くの市民、観光客で賑わっているが、更なる夜の賑わい創出に取り組む必要がある。
各施設の老朽化、機能強化への対応が必要	平成27年度に岡崎プロムナード(神宮道と岡崎公園の再整備)や動物園、ロームシアター京都の再整備が完了し、更に魅力が向上した。	京都市美術館の再整備	
来訪者を総合的に案内する環境が不十分	総合情報サイトの開設や、総合情報誌の発行、更には京都岡崎にゆかりのある市電の車両を活用した地域ガイド拠点、岡崎・市電コンシェルジュ開設等、総合案内・情報発信を強化した。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	施設間の連携の弱さ	京都岡崎魅力づくり推進協議会を中心に、更なる周辺施設や団体との連携を強める。	今後も継続して、京都岡崎魅力づくり推進協議会が中心となり、イベント等で周辺施設や団体と一体になって、賑わいを創出する。
	各施設の老朽化、機能強化への対応が必要	京都岡崎地区で老朽化等への対応ができていない京都市美術館については、第2期計画において、平成31年度の完成を目指して再整備に取り組む。	京都市美術館再整備事業

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	夜の賑わいの創出	岡崎公園、動物園、ロームシアター京都やみやこめっせ等の文化・交流施設等や地域での取組と連動してイベントを開催する等、岡崎地域が一体となり、多彩な事業を展開することにより夜の賑わい創出する。	周辺施設、店舗等の連携による、地域が一体となった夜の賑わい創出イベントの開催する。

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

<input type="checkbox"/>	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	動物園入場者数	人	710,105	H20	781,116 (H27年度 第4四半期: 195,279) ↓ (年換算 781,116)	H27	確定 ●	1,417,748	○	あり	→		
							見込み			なし			
指標2	京都会館利用率	%	第一ホール:67% 第二ホール:67%	H21	第一ホール:77% 第二ホール:77%	H27	確定 ●	第一ホール:100% 第二ホール:100%	○	あり	→		
							見込み			なし			
指標3	神宮道でのイベント・催し件数	件	5	H24	8	H27	確定 ●	12件	○	あり	→		
							見込み			なし			
指標4				H		H	確定			あり	→		
							見込み			なし			
その他の数値指標1				H			確定				→		
その他の数値指標2				H			見込み				→		
その他の数値指標3				H			確定				→		
				H			見込み				→		

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	数値目標を客観的な数値にすることにより、明確に目標・成果の達成が判断できた。	数値目標については、客観的な数値にすることで、目標・成果の達成が明確となる。
	うまく いかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	まちづくりの目標である「更なる賑わいの創出」に対し、目標を定量化する数値目標として、「動物園入園者数」、「京都会館利用率」、「神宮道でのイベント・催し件数」など、賑わいに関する指標を設定したことから、目標と数値目標の整合性が図られた。	まちづくりの目標と、数値目標の整合性を図ることで、事業評価が容易となる。
	うまく いかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	市民や地域住民が参加して地域の活性化の指針である岡崎地域活性化ビジョンを策定し、地域住民が参画するエリアマネジメント組織を中心にまちづくりを推進するなど、常に住民が参加しながら事業を実施した。	計画、実行など、あらゆる段階で住民参加を図る必要がある。
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	京都岡崎魅力づくり推進協議会や庁内岡崎地域活性化プロジェクトチーム会議において、課題の抽出や事業の評価・検証を行っている。	引き続き、京都岡崎魅力づくり推進協議会や岡崎地域活性化プロジェクト会議(庁内)で、において、事業の評価、検証を行う。
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

活用予定: 京都岡崎地区(第2期)

(6) 有識者からの意見聴取

添付様式8 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
高田 光雄 氏 (京都大学院工学研究科 教授)	2月	総合企画局プロジェクト推進室

有識者の意見	<p>エリアマネジメントに関する認知度が高まり、多くの地域で展開されるようになってきている。全国的に見ると、事業者が主体となってエリアの価値を高めるBID(Business Improvement District, ビジネス活性化地区)活用のエリアマネジメントモデルが多い中で、岡崎地域のように、文化交流施設など、パブリックスペースを中心に、市民が参加しながら、まちづくりの指針となるビジョンの策定から、推進まで行っている地域は多くはない。</p> <p>この地域は文化芸術エリアとして市民の認知度は高かったが、文化施設の施設間連携や周辺の住民や商店等との連携・協働が弱いことが課題であったが、自治会連合会、周辺の施設、団体、事業者、関連政策分野の団体、行政等が参画したエリアマネジメントの組織が設立・運営され、連携の強化・調整が図られ、情報の発信や多様な主体を巻き込んだ展開がされていることは、今後のまちづくりのあり方を考える上でも大変重要である。</p> <p>更に、岡崎地域では、ビジョンの推進に必要な都市計画の変更を行い、ロームシアター京都や動物園のリニューアルオープン、また平成27年9月に再整備が完了した岡崎公園においてイベントの開催が活発化しており、多くの市民・観光客が訪れ、昼の賑わいが定着してきていることが実感できる。平成31年度に、美術館再整備が完了すれば、更なる賑わいが期待できるであろう。</p> <p>一方で、文化施設の多い地域であるため、夜になると施設の閉館に伴い、人通りが少なくなり、昼に比べると賑わいがなくなる。協議会等が主催となり、夜のイベントなども実施しており、更に夜間営業する店舗も増加してきているが、日常的な夜の賑わいや足元を中心とした照明の増加など夜の魅力創出、賑わいづくりが、これからの課題である。</p> <p>最後に、京都岡崎の知名度、イメージというものが、大きく変わってきた。エリアマネジメントの推進や施設の再整備に伴い、その成果として岡崎の知名度が高まりつつある。更に文化首都・京都、日本だけでなく、世界に冠たる文化・交流ゾーンとして発展することを願っている。</p>
--------	---

都市再生整備計画

きょうと おかざき
京都岡崎地区
(第4回変更)

きょうと ふ きょうと し
京都府 京都市

平成27年11月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	京都府	市町村名	京都市	地区名	京都岡崎地区	面積	34 ha
-------	-----	------	-----	-----	--------	----	-------

計画期間	平成 24 年度 ~ 平成 27 年度	交付期間	平成 24 年度 ~ 平成 27 年度
------	---------------------	------	---------------------

目標

京都・岡崎地域は、東山を望む素晴らしい都市景観の中に琵琶湖疏水をはじめ、美しい庭園群や文化財、美術館、博物館などの文化交流施設が集積した地域であり、文化・交流ゾーンとして年間500万人以上の方々が来訪している。このように、岡崎地域の持つ素晴らしいポテンシャルの更なる活用と岡崎地域で展開されつつある関連施策の融合により、地域の活性化の指針たる「岡崎地域活性化ビジョン」を策定した。本計画は、このビジョンを実現するための施策を行い、「優れた都市景観・環境の将来への保全継承」、「世界に冠たる文化・交流ゾーンとしての機能強化」、「更なる賑わいの創出」を図っていくことを目標とする。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

岡崎地域には、平安遷都1100年を記念して建設された平安神宮と、内国勲業博覧会の会場跡地に整備された文化・交流施設が集積し、京都の近代化のシンボリックな地域である。周辺には、民間の美術館・博物館、有名な寺院・神社が集積し、更に近代化を牽引したもう一つの象徴である琵琶湖疏水と疏水の水を活用した庭園群が優れた水辺の景観を醸し出している。

課題

- ・情報発信が弱く、「岡崎」の知名度が低い
- ・貴重な文化遺産の継承と活用を両立させる仕組みが不十分
- ・各施設の老朽化、機能強化への対応が必要
- ・施設間の連携の弱さ
- ・周辺地域からの人の流れや、公共交通によるアクセスが弱い
- ・優れた景観の継承と文化・交流ゾーンとしての機能強化のための都市計画のルールが必要
- ・地域に人が憩い、交流し、滞留する機能が不足
- ・夜の寂しさ
- ・環境モデル都市を牽引する進取の取組の必要性
- ・来訪者を総合的に案内する環境が不十分

将来ビジョン(中長期)

- ①岡崎のエリアブランドを構築し、世界に向けて魅力・情報を発信
優れた地域資源や地域の取組をつなぎ、魅力を向上させることにより岡崎のエリアブランドを構築するとともに、積極的な情報発信などにより岡崎地域の知名度や集客力の向上を図る。
- ②山紫水明の岡崎の魅力を生かす琵琶湖疏水と近代化遺産の保存と活用
琵琶湖疏水や庭園群については、文化的景観としての保全・修復を図りつつ、回遊や散策、MICE戦略への活用など、来訪者が岡崎の水辺の景観をじっくりと楽しめる環境づくりを進める。
- ③文化芸術、MICE拠点としての機能強化
岡崎ならではの多彩な文化・交流機能の集積をいかし、質の高い文化芸術が創造・発信される世界に冠たる文化・交流拠点としての機能強化とMICE拠点としての機能強化を図る。
- ④地域資源を結び、岡崎の総合的な魅力を高める、保全・創造の景観・まちづくり
東山を借景とした広々とした空間を持つ岡崎地域の優れた都市景観・環境の継承と、地域の魅力を高める施設の整備等を可能とする都市計画の変更をはじめ、地域資源を結び、安心・安全で魅力的な都市空間づくりに向けたエリアデザインの検討を行う。
- ⑤多くの人々が訪れたい新たな賑わい創出
道路や公園、施設などのオープンスペースをつなぎ一体的に活用することで、市民、地域の人々、来訪者に親しまれる、歩いて楽しい岡崎地域にふさわしい憩いの空間と賑わいの創出を図る。
- ⑥環境モデル都市を牽引する進取の取組の実践
環境負荷の低減や生態系への配慮、再生可能エネルギーの活用や緑豊かな環境の保全など、環境モデル都市を牽引する取組を実践し、広く発信していく。
- ⑦集客・国際観光拠点としての機能強化
分かりやすい観光案内を総合的にを行い、国内外からの来訪者が気軽に回遊し、岡崎地域の魅力を享受できる環境づくりを進める。

目標を定量化する指標

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
					基準年度	目標年度	
入園者数	人	有料入園者数と無料入園者数の合計	動物園整備開始年度の前年入園者数を基準に10%の増加を目標とする。	710,105	20	781,116 (H27年度第4四半期: 195,279) ↓ (年換算781,116)	27
京都会館利用率	%	京都会館の日数利用率	第一ホール及び第二ホールの日数利用率と再整備後の平成27年度第4四半期の日数利用率を比較し、平均10%の増加を目標とする。	第一ホール:67% 第二ホール:67%	21	第一ホール:77% 第二ホール:77%	27
神宮道でのイベント・催し件数	件	神宮道を活用したイベント・催しの開催件数	現状の催しの5割増以上を目標とする。	5件	24	8件 (H27年度第4四半期:2件) ↓ (年換算:8件)	27

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・文化・交流拠点としての機能強化 ①京都会館再整備により、これまで舞台機能を原因として公演が見送られていた様々な演目の実施が可能になり、岡崎地域の文化による交流拠点としての機能を強化する。 ②京都市動物園では近くて楽しい都市型動物園として、園内のゾーン分けや図書館、カフェ・レストランなどの施設充実を図る再整備事業に平成21年度から取り組んでいる。</p>	<p>●高質空間形成施設【基幹事業】 京都会館再整備事業 ●高次都市施設【基幹事業】 京都会館再整備事業 ●既存建造物活用事業【基幹事業】 京都会館再整備事業 ●動物園再整備事業（関連事業）</p>
<p>・MICE拠点としての機能強化 京都会館再整備においてMICEのニーズに応じていくための機能強化を図る</p>	<p>●高次都市施設【基幹事業】 京都会館再整備事業 ●既存建造物活用事業【基幹事業】 京都会館再整備事業</p>
<p>・地域全体の魅力向上に向けた官民地域連携のエリアマネジメントの取組 立地施設・事業者、関係分野の団体、行政などが連携し、地域全体の魅力向上に向けたエリアマネジメントの取組を推進する。</p>	<p>●官民地域連携によるエリアマネジメント組織の運営等（ソフト事業）（提案事業）</p>
<p>・神宮道の歩行者専用化による「歩いて楽しい岡崎」の実現 神宮道を歩行者専用化し沿道公園と一体的な整備を行うことで、市民、地域の人々、来訪者に親しまれる、歩いて楽しい岡崎地域にふさわしい憩いと新たな賑わい空間の創出を図る。</p>	<p>●道路【基幹事業】 神宮道周辺道路整備事業（交差点改良等） ●公園【基幹事業】 岡崎公園再整備事業 ●事業活用調査【提案事業】 神宮道及び岡崎公園の再整備事業（交通調査、計画策定等）</p>
<p>その他</p>	

交付対象事業等一覧表

交付対象事業費	6,264	交付限度額	2,818	国費率	0.45
うち、社会資本整備総合交付金対象事業 計	6,264	うち、社会資本整備総合交付金対象事業 計	2,818		
うち、地域自主戦略交付金対象事業 計	0	うち、地域自主戦略交付金対象事業 計	0		

(金額の単位は百万円)

基幹事業①社会資本整備総合交付金														
事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
道路		神宮道周辺道路整備(交差点改良等)	京都市	直	-	平成26年度	平成26年度	平成26年度	平成26年度	60	60	60		60
公園		岡崎公園再整備事業	京都市	直	-	平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	250	250	250		250
古都及び緑地保全事業														
河川														
下水道														
駐車場有効利用システム														
地域生活基盤施設														
高質空間形成施設		京都会館再整備事業	京都市	直	-	平成24年度	平成27年度	平成27年度	平成27年度	268	169	169		169
高次都市施設		京都会館再整備事業	京都市	直	-	平成24年度	平成27年度	平成25年度	平成27年度	7,129	1,870	1,870		1,870
地方都市リノベーション推進施設														
生活拠点施設														
既存建造物活用事業		京都会館再整備事業	京都市	直	-	平成24年度	平成27年度	平成25年度	平成27年度	3,637	2,797	2,797		2,797
土地区画整理事業														
市街地再開発事業														
住宅街区整備事業														
地区再開発事業														
バリアフリー環境整備促進事業														
優良建築物等整備事業														
住宅市街地総合整備事業	拠点開発型													
	沿道等整備型													
	密集住宅市街地整備型													
	耐震改修促進型													
街なみ環境整備事業														
住宅地区改良事業等														
都心共同住宅供給事業														
公営住宅等整備														
都市再生住宅等整備														
防災街区整備事業														
合計										11,344	5,146	5,146	0	5,146

…A'

基幹事業②地域自主戦略交付金														
事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
道路														
公園														
河川														
下水道														
合計										0	0	0	0	0

※交付期間内事業期間は平成24年度以降を記載 ※H24以降を記載 ※H24以降分を記載

…A'

基幹事業 総計(①+②)														
総計											5,146	5,146	0	5,146

…A+A'

都市再生整備計画の区域

<p>京都岡崎地区(京都府京都市)</p>	<p>面積</p>	<p>34 ha</p>	<p>区域 岡崎最勝寺町及び岡崎成勝寺町(琵琶湖疏水西側の道路以東), 岡崎西天王町及び岡崎入江町並びに聖護院円頓美町(いずれも京都市武道センター及び平安神宮敷地), 岡崎法勝寺町及び南禅寺草川町(京都市動物園敷地), 岡崎円勝寺町(仁王門通以北)</p>
-----------------------	-----------	--------------	---

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること。

